

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 授業形態、教材の多様化に伴う既存教室の機器などの改善を図る。	→教室へのプロジェクター設置割合。教員の機器使用要求に応える度合い。	B	B	/	/	/
2. 会議など事務的負担を軽減することによって研究時間を確保する。	→学部で設置する委員会数。メールによる持ち回り委員会の開催数。	D	D	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) 可動式プロジェクター、PCの貸し出しは100%対応できており、システムリプレースを2010年度に行った。経済学部棟には、大学院生、研究員に対しての集会室や大学院生研究室などが完備され、研究の場が提供されている。委員会数および構成員数の減少、会議開催の効率化までには至っていない。
その他	

《評価指標データ》

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	集会室や大学院生研究室は完備されているが、18時20分以降も利用したいといった要望があり、対応する場合には、夜間自主的使用が可能なセキュリティ対策の検討が必要である。 各種委員会のあり方および構成人数等の見直しも検討しなければならない。
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	建物開館時間（セキュリティ対策）については全学的な対応が必要である。 大学院と学部合わせて委員会数および委員会構成を再検討する。
	その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	学部の項でも触れたが、2009年度に設定した指標のうち「委員会開催数、メールによる持ち回り委員会の開催数」については、大学院に限定した委員会（研究科委員会など）には言及しにくく、指標の再設定が必要である。（会議時間の短縮など）
---	---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究時間の確保については、積極的な取組みが求められます。

【学内委員】

○小項目9.0.4で「各種委員会のあり方および構成人数等の見直しも検討しなければならない。」としているように、会議時間の短縮等を含めた委員会の抜本的な見直し案の提示が期待されます。

○機器備品の整備が進められています。なお、大学基準協会の留意事項を参考にされた記述を加えられると、現状における目標以外の環境や条件についてより分かりやすいものになると思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし